

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	令和元年10月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名 (ユニット名)	グループホーム齋院の杜 1F
記入者(管理者) 氏名	嶋屋 浩典
自己評価作成日	令和元年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】 1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。 2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1、地域との付き合い・ネットワーク作り ○取り組みの一つである「防災士」との連携作りを目標とし、運営推進会議及び施設の消防訓練に参加して頂けた。 2、本人と共に支え合う家族との関係作りと支援 ○今年度から看取り実施に向けて取り組みを始めた。看取り対象となる家族様との蜜に連携を取り本人の想いや家族の想いを聞き支援を継続している。また、個別での連絡体制を作り施設と家族が蜜に連絡を取れるように心掛けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 閑静な住宅地にある開設8年を迎える事業所である。利用者のどこに出かけたい、何を食いたいのかを大切に個別ケアを行っている。代表者や管理者、職員間の関係も良好であり、退職者も少なく利用者にとって馴染みの職員がいる安心できる事業所である。家族会を積極的に行うほか、事業所の行事への案内や毎月の手紙等家族との関わりを大切にしている。地域に密着した事業所を目指し、積極的に地域とのつながりを深めようと取り組んでいる。今後は利用者や家族の希望に沿い、終末期支援を行えるように看取りの実施に向けて準備に余念がない。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話の中から本人、家族の希望・要望をお伺い日々のケアに反映出来るように取り組んでいる。	○	/	○	入居前に利用者や家族から暮らし方の希望や意向を確認している。過ぎていく中で知り得た希望等はアセスメントシートに手書きで追加した上で申し送りノートに記入し、その都度職員全員が共有できるように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族等からの情報収集に努める事や本人の普段の様子や言動を参考にし本人の視点に立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に昔の様子など情報を集め、ケアにつなげられるように努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	集めた情報を介護計画に結び付け取り組んでいる。また介護記録などに記録し、情報共有も図れている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人の発した言葉に耳を傾け、ミーティングなどで情報収集をしている。その中でプランや外出行事などにつなげている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時のアセスメント票を使って情報を集めている。家族にもお渡ししご協力して頂いている。	/	/	◎	管理者と介護支援専門員は、入居前の利用者の自宅に訪問し、馴染みの暮らし方や生活歴、生活環境等を利用者や家族から聞いてアセスメントシートに記入している。入居前に利用していたサービス事業所からも情報を得て把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人の出来る事に着目し、出来る事が一つでも増えていけるように積極的に声掛けをしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の介護記録に本人様の状態を残り、記録を振り返る事で不安定な前後の状況が把握できるように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	ミーティングなどで要因について話し合ったり、時には主治医や家族の力を借りながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人の生活リズムに合わせて支援している。日中や夜間の変化については介護記録や申し送りノートに残す。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	集めた情報をもとに職員間で話し合い、本人様求めている事なのか？本人の視点に立って考えるように努めている。	/	/	○	把握した情報を職員で話し合っ利用者視点で必要な支援を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人と相談し必要な物やサービスを考える。決めきれない場合には家族に協力依頼する事がある。購入に関しては担当の職員が購入する場合や家族に購入を依頼する場合もある。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で一人一人のケアの評価や物品の評価をして、本人様の生活がより豊かになるように心掛けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	今までの生活を大切にしながら情報収集を行っている。施設でも継続して出来る事を取り入れ反映している。				計画作成担当者と利用者、家族、担当職員が話し合って利用者や家族の意向を反映させた介護計画を作成している。半年ごとに介護計画の見直しを行っており、家族にもその都度書面で意向を伺っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ミーティングや普段の申し送り時に必要な話し合いが来ている。また運営推進会議などで家族や地域・行政の助言を頂きながら取り組んでいる。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人にとつての安心とは何か？本人の視点に立って考える。また今年度から「看取り」の取り組み実施に向けて家族との連携を深めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	笑顔で過ごせる日が増えるように家族に行事の案内を出すなど工夫している。また地域との連携強化を図っている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員全員が担当を持ち、介護計画のアセスメント、モニタリング、評価を行う事で知識を深め、ミーティングで情報共有が図れている。			○	介護計画はすぐに確認できるようにしているが、日々の記録の中で介護計画に沿ってケアが実践できているか、連動してナンバリングするなどさらに分かりやすい記録方法を検討してほしい。利用者の様子や支援内容を丁寧に記録しており、職員が気づいたことやアイデアも個別に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月末に介護計画のモニタリングをして実施の評価をしている。介護支援専門員と相談しながら、介護計画を継続するか、変更するか検討している。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人の発した言葉を大切にしているので介護記録に残すように心掛けている。普段と違う様子なども記入している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティングで新しい取り組みについてアイデアが出ている。また日々の申し送り時にも話し合いが行えている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	評価期間は6か月になっている。本人の状態やモニタリングの結果などからその都度変更する場合がある。その場合は家族にも連絡している。			◎	介護計画は6か月ごとに見直ししている。毎月モニタリングを行い、利用者の状態を確認・共有している。利用者の状態に変化があった場合はその都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月末にモニタリングという形で評価をしている。介護計画を継続するのか変更するのかを相談しながら決めている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態の変化や介護計画の見直しを行った際にはミーティングで報告をして、職員間の情報共有を図っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ミーティングを設けており、話し合いを行っている。また状態の変化に合わせて臨時でミーティングを開くケースもある。			◎	各ユニットで毎月ミーティングを行い、年2回程度両ユニット合同で話し合っている。参加できなかった職員も会議の内容が把握できるように、申し送りノートや議事録を回覧・確認して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	司会者を中心に参加した職員全員が発言できるように配慮している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	各ユニットで相談し、日時・カンファレンスのメンバーを決めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加出来なかった職員は議事録や申し送りノートを確認した後サイン欄に記入し情報共有を図っている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	特に伝達が必要な内容は業務日誌の特記事項欄に記入し確実に申し送れるように心掛けている。			○	申し送りノートや会議の議事録等は、確認後サインをして確実に情報伝達ができるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートにはサイン欄があり、申し送りノートに目を通しサイン欄に記入してから業務に入るようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々コミュニケーションを大切にしている。その中で把握に努め支援出来るように心掛けている。またしたい事が実現出来るように個別ケアを大切にしている。	/	/	/	朝食は利用者の起床時間に応じて提供している。おやつや飲み物等は、いくつかの中から選んでもらい、服装も利用者に選んでもらうようになっている。利用者一人ひとりの得意なことや好きなことを把握し、生活の中に取り入れて楽しみのある暮らしを支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で服を選んだり、朝食はご飯・パンなど生活の中で自分で選択できるように心掛けている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	職員と一緒に買い物へ行き服や日用品を選んで購入する支援を心掛けている。また個別で外出出来る機会も設けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りお応えできるように心掛けている。また要望の中でそれぞれの健康状態に合わせて対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一対一の関わりを大切にしており、その中で本人の発した言葉に耳を傾け記録に残している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	重篤で意思疎通が難しくなっても、本人の表情の変化に注意して職員間で話し合い支援できるように心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人間としての「人権」「尊厳」を大切にプライバシーを守りながら支援できている。ミーティングでも再度確認している。	○	◎	○	外部研修に参加して人権や尊厳について学んでおり、普段から利用者に対して言葉遣いや表情、目線を合わせての会話等意識している。居室はノックや声かけをして入室するように心がけ、利用者の希望で開放していても、のれんをかけて居室内が見えないように配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人一人に合わせ声掛けや支援をしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	羞恥心やプライバシーに配慮して声掛けや支援を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入りには、必ず声掛けをしてプライバシーに配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報の取り扱いに関しては就業規則にも記載されており、職員にも周知出来ている。記録に関してはシュレッダーにて処理をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員・利用者の関係性を大切にして共にありがとうと言ひ合える生活を心掛けている。	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を把握し、トラブルを未然に防ぐように心がけている。利用者の中で良好な関係が築けており、利用者同士が気持ち良く関わりを持てるように支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性・時間を大切にしている。居室でゆっくり話されている時はお茶を持って過ごされたりしている。また職員が仲介役となり、孤立を防いだり、トラブルになっても円滑に対応出来るように心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	距離を置いたり、散歩に出かけたり不安な気持ちを緩和できるように配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時、面会時に情報が得られるように家族や知人の方とのコミュニケーションを図っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から情報を集めている。面会以外でも遠方の方には手紙を送りに記入して頂いている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	馴染みの友達や、遠方の子供・お孫さんなど面会に来て頂いている。携帯電話を持っている方は友達と連絡をされている方もいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	自宅で馴染みの方とゆっくり過ごせるように職員が間に入り普段の様子をお話している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	その日の希望に添いながら支援している。天気の良い日には少しでも外の空気に触れて頂くために散歩や駐車場の花を見て過ごして頂く。	○	○	◎	散歩や買い物、夕食等利用者一人ひとりのその日の希望の場所へ出かけられるように努めている。重度の利用者を含め、気軽に出かけており自然に触れることで、気分転換が図れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ボランティアやサポーターではなく家族の力を借りながら支援している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	玄関先の花を見て過ごしたり、他の階に遊びに行つて気分転換が図れるように工夫している。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族さんと遠方に出かけたり、外食に行かれる事もある。家族の意向をお伺いしたり、本人の希望を伝えて実現する事もある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症にちて理解を深めている。外部の研修に参加をしたり社内研修も実施している。	/	/	/	職員は、手や口を出しすぎずに利用者のできることを見守ったり、一緒に行ったりすることで利用者の心身機能の維持や向上につながるようになっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	機能が低下しないためにレクリエーションを計画したり、天気の良い日には外に出て歩いて散歩をしたりしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようになっている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事・出来そうな事を声をかけながら見守り、また一緒に作業をする事で自発的に取り組んで下さる事がある。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人の生活歴の把握に努めている。仕事や習慣・趣味が生活の中で出来て、笑顔が見られる生活が送れるように支援している。	/	/	/	洗濯物たたみや掃除、裁縫等、利用者一人ひとりの得意なことを見つけて役割を持ってもらえるように取り組んでおり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	重度になっても本人の思いを尊重し確認しながら支援している。一緒に笑顔が見られるように取り組んでいる。個人にできるお手伝いをして頂いている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事に参加するように心掛けている。地区の文化祭など出展もしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	その人らしい身だしなみをしている。その日着る服は自分で選ばれている。				食事中の食べこぼしに対してさりげなくカバーする職員の様子が見受けられた。重度の利用者を含め、衣服と一緒に選んだり、髪型や服装を整えたりして、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分の好きな服を選んで過ごして頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の前に服を持って行き確認して頂くような工夫をしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	散歩や外出前に身支度し外出先に合わせて身だしなみを整えて出発する方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	髭の剃り残しがないように確認している。自分で直せる方にはさりげなく声掛けするよう配慮している。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問して頂いている所を利用しているが、馴染みの美容院や理髪店があれば利用して頂く。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時に髪型を整えたり、季節感のある服が取れるように置き場所の工夫をしてを一緒に選ぶ。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				献立は調理師が作成しており、昼食と夕食は調理師が両ユニット分を1階でまとめて調理している。食材の買い出しは職員が行っているが、家庭菜園で利用者と一緒に収穫した季節の野菜をメニューに加えたり、好みを踏まえながら誕生日等利用者のリクエストに対応したりしている。食器類は使い慣れたものや利用者に合った使いやすいものを使用している。1階は利用者と職員と一緒に食事をしており、2階は食事介助があるため、一緒に食べていないが、今後一緒に食卓を囲む機会を作っていきたいと考えている。キッチンがリビングに面した対面式になっており、重度の利用者を含め、利用者全員が調理の音や匂いを感じている。職員がメニューの説明をする等、食事を楽しんでもらえるような工夫もしている。職員と調理師で栄養バランスの良い献立を作成するとともに、利用者一人ひとりが美味しく食事できるように話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の好物やリクエストを聞きながら献立に取り入れている。また旬の食材を使い食で季節を感じて頂けるように工夫している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	食後自分で下膳される方もいらっしゃる。「ありがとう」と伝えたとニコニコ嬉しそうな表情をする姿も見受けられる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前の相談時に本人・家族にお伺いをして情報収集をしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は調理師と相談しながら決めている。入居者の好きな物や旬の物を取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	利用者の嚥下機能や咀嚼状態を把握しており、きざみ食やトロミを使いながら調整している。口腔体操を毎食前実施している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのある物を施設でも継続して使って頂けるように持って来て頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者と一緒に食事をしている。見守りながら本人のペースを大切にしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理の音・香りが届きやすい作りになっているため、雰囲気作りに配慮している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量・水分量をチェックし申し送りの際引き継ぎを行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の体調に合わせて時間をずらしたり、好きな物をお出して様子を見たり工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師と相談しながら献立を決めている。旬・行事・誕生日や食べたい物を取り入れ考えている。野菜をたくさん使用し、キノコ類や海藻など繊維質も多く取り入れている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板や布巾の消毒や手洗いの徹底、食材は賞味期限に注意しながら取り組んでいる。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。				毎食後、声かけや介助をして口腔ケアを行い、口腔内の状態を把握して清潔保持に努めている。月2回歯科往診を利用している利用者が現在3名いるが、事業所全体として歯科衛生士との定期的な連携を検討する等、利用者の口腔ケアに万全を期すようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食後の口腔ケアの際、義歯の状態や歯の確認をしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診後口腔ケアの指導やその人に合った磨き方の助言等を頂取り組んでいるが、定期的な歯科衛生士との連携は取れていないため今後検討が必要				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	口腔内の清潔に努めている。また夜間はポリドントを利用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	その人の合った方法で口腔ケアを実施している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	痛みの訴えや表情の見て歯科医と相談し迅速に対応できるように努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。				トイレで気持ち良く排泄できることを基本にしており、利用者の希望で夜間ポータブルトイレを使用している利用者もいる。利用者一人ひとりの状態に合わせて使用する排泄用品を見直したり、おむつ業者の研修を受講して知識を身につけたりすることで、排泄用品に頼りすぎず、なるべく量を減らせるように取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使っているので全員が把握できるように心掛けている。また間隔が空いている場合は声掛けをしたり、下剤を使うなど対応出来ている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人の状態に合わせて適切に対応出来ている。またミーティングや業者からの社内研修を通じて見直す機会も設けている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	居室にポータブルトイレを設置や案内を置き目視で確認できるように工夫している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を用いて職員が確認し合い、声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パッド使用の際は話し合いを行い適切かどうか検討している。また変更や新たに使用する際にはご家族にも説明して同意を得てから取り掛かるように努めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	夜間帯のみ紙パンツを着用したり、一人一人に合わせて使い分けている。オムツの選択方法や漏れない当て方の研修実施した。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食物繊維の多い食べ物や寒天などをおやつに取り入れ工夫している。また体操や散歩や腹部マッサージなど実施して便秘にならないよう努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人と相談しながら入浴を決めている。一人一人に合わせて入浴の長さ・温度など決めている。			○	基本的に週3回入浴できるようになっており、利用者の入浴日は決めていない。好みのシャンプーを使用し、時間をかけてゆっくり入浴してもらう等、利用者一人ひとりの希望に合わせて柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	職員との会話を楽しみながら楽しく入浴をされている。また職員も一対一の関わりを大切にしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で行えるように声掛けをして取り組んでいる。また届かない所などはサポートしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人のペースに合わせて無理強いせず声掛けをして実施している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタル測定を行い健康状態の把握に努めている。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	理解している。				日中活動的に過ごす等工夫し、服薬に頼らないようにしている。不眠が続く場合は、主治医に相談して薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やして夜間休んで頂けるように心掛けている。散歩やレクリエーションに力を入れている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	各主治医に日中の過ごし方や夜間睡眠について報告をしている。安眠に繋がる助言を頂いたり、必要に応じて主治医が薬が必要と判断された場合のみ処方して頂いている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室にて横になって頂いたり、ソファーにくつろいで頂いたり、一人一人心身を休められるよう配慮している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話が掛かってきたら居室でゆっくり話せるよう環境作りをしている。また利用者からご家族に連絡したい場合は事前にご都合の良い時間をお伺いするなど配慮している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人にお渡しして居室に飾っている利用者もいる。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を所持させている方もいらっしゃるので気軽に電話が出来るように配慮している。事業所の電話からご家族に連絡する場合でも気兼ねなく話せるように工夫している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	家族・知人から手紙は本人にお渡ししているが、こちらから返信する事は少ない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	年賀状などこちらから依頼するケースは少ない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品を一緒に買いに行き、自分で選んで購入する事もある。また外食する機会も設けている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	外食など事前に車いす可能か連絡確認してから行く事もある。伝える事で入口から近い席に案内して下さるお店もある。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談して入所時からお金を持っている方もいる。外出の時にはそのお金で購入する機会もある。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	自分で持たれている方は紛失のリスクも相談している。また一人一人お小遣い預かりとして出納帳を作成している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月出納帳のコピーと日常の様子の手紙を添えて配布してご家族に使い道の確認をして頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者の希望・要望に添えられるように支援している。	○		○	訪問マッサージ等利用者が希望する外部サービスを利用することができる。法要への参加等、希望があれば様々なニーズに応じ、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	季節の花や野菜を育てており明るい環境作りを目指している。玄関には利用者の作品(ピース)を展示して、来客者の楽しみの一つになっている。	○	○	◎	玄関は道路から少し中に入った駐車場側になっているが、道路側には事業所名や「老人介護を承ります」との看板があり、見た人がどのような建物か分かりやすいように示している。玄関周辺はプランター菜園や良く手入れされた植物が置かれ、家庭的で明るく入りやすい雰囲気である。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合わせた展示物を飾り利用者の楽しみとなり、作品と一緒に作る事で達成感にも繋がっている。また写真を展示する事で思い出を利用者と振り返り笑顔が見える場面がある。家族より本人の写りが欲しいとお渡したケースもある。	○	○	◎	利用者と職員と一緒に作成した展示物や、利用者の似顔絵や写真等を展示している。リビングや浴室、トイレ等も掃除が行き届き、清潔が保たれており、気持ち良く使用できる。エアコンの吹き出し口に布をつけて直接風が当たらないように工夫している。花や植物をバランス良く飾り、温かみのある空間づくりに取り組んでいる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除や整理整頓をして環境面に配慮している。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天気の良い日には窓際のソファに座りくつろぐ場面や外の景色を見て子供たちと話をしている場面もある。						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居室にお茶を持っていきゆっくり過ごせるように配慮している。職員が仲介役となり孤立やトラブルがあった際円滑に対応できるように心掛けている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	見えない作りとなっている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	馴染みのある物を施設でも継続して使って頂けるように持って来て頂いている。	◎		◎	エアコンと利用者の状態に合ったベッドが備え付けられている。家具や電化製品等、以前使っていたものを持ち込み、家族の写真を飾る等安心できる空間づくりをしている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下やトイレ浴室に手すりを設置し、玄関内には椅子を置いて座れる配慮をしている。			○	リビングは、車いすの利用者も方向転換したり、自走したりしやすいように十分なスペースがある。トイレの手すりは利用者にとって分かりやすいように色テープを貼る等、安心して自立した生活が送れるようにしている。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	手すりの赤色ビニールを巻いて分かりやすくしている。一人一人の安全確保に努めている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌や新聞などリビングに置くことで利用者が自分で読みたい時に読めるよう配慮している。湯呑のカウンターに置いているので飲みたい時に飲まれる方もいる。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全員が施錠する事での弊害を理解している。今年度から日中は鍵廃止を掲げ、家族にも報告をしている。	x	◎	△	玄関のドアは日中は施錠していない。職員全員が鍵をかけた中で生活することの弊害を理解しているが、ユニットの出入口については状況に応じて鍵をかけている。2階はユニット出入口を出てすぐに階段があり、安全性を第一に考慮して施錠し、家族にも説明して了解を得ているが、今後は鍵をかけない自由な暮らしが送れるよう家族にも理解を求めた上で工夫して欲しい。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全面で施錠を希望されるご家族もいるが施錠をしなくて自由に過ごす大切さを理解して頂くように説明をしている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出が好きな利用者が多く、職員と一緒に散歩に出かけたり、外に出る機会を大切にしている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	現病によって薬の増減や対応が変わるので把握している。また申し送りノートに薬の増減について記載し確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	状態に変化が見られた場合は必ずバイタルチェックをしている。また申し送り・ミーティングで変化を伝え、対応・対策を考え取り組んでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護師や往診時主治医に気になる事は相談し対応・対策をお伺いしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居の際に今利用している病院を継続して利用したいか必ず確認している。実際に入所してから今まで使っていた病院を継続して利用している方もいらっしゃる。		○		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	病院に受診される時施設職員が同席している。ご家族の希望と主治医の意見を確認しながら円滑に適切な医療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族の依頼より病院の現地で待ち合わせそのまま受診に同席させて頂く事もある。その中でご家族と情報共有し、施設での対応について説明し同意頂くようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	緊急用情報提供表と施設情報を全員作成しておりスムーズに動くことが出来るようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先に行く場合には現状把握・退院時期などその都度聞く機会を設け状態把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	細かい変化があった場合でも往診時に報告し状態把握に努めて頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護ステーションと契約し定期的に往診に来て頂いている。利用者の変化はこまめに報告し主治医との連携も図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションと契約しており、夜間や緊急時の連絡体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや排便コントロールなど確認し情報の共有が図れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の作用・副作用を把握出来るように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	本人の前で名前・朝昼夕・日付を声に出して確認し服薬介助を行う。また飲み込みも確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の増量・減量など変化があった時には申し送りノートを使って必ず伝達し情報共有が図れている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態に変化が見られる場合には主治医に連絡し迅速に対応している。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	今年度から看取りの実施実現に向けてアンケート依頼や発信する機会が多く家族から考える機会を頂いたと話をさせて頂けた。	/	/	/	看取りの実績はないが、看取りの実施に向けて家族や利用者アンケートを行った結果、看取りを希望する声が多く、職員も事業所での看取りについて前向きな気持ちである。今後、医師や看護師との連携、看取り指針やマニュアルの作成、職員研修等を行い、看取り支援が実施できるように準備を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	各主治医にも看取りの実施の話を連絡体制の強化を図っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	本人の想いや家族の考え方を含めてケアマネや職員と共に話し合いを重ねている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族から施設がどこまで出来るかわからないと意見を頂いたので分りやすく説明・文章の工夫が必要と感じている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人の想いや家族の希望・要望を密に話し合い、希望する医療機関で受診できるように支援している。また主治医の往診時には近況報告を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に近況報告を行っている。また電話や手紙などで遠方の方には報告をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	各種マニュアルを作成しており各階に掲示している。また時期になる前にミーティングで勉強会を行い早期対策に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症のセットを常時準備している。またインフルエンザの流行時にはご家族協力のもと面会に規制をかけ予防に努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	流行の時期になると最新の情報を集め予防・対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の発生や系列施設での流行に合わせて予防・対策など対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底しており、予防対策としてマスクも活用している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が面会に来られた時には、普段の様子や行事の様子をお伝えしている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。				家族には、年間を通して定期的に事業所行事の案内を行っており、行事に合わせて年2回家族会も開催し、年々参加者も増えている。毎月利用者の暮らしぶりを報告する手紙を送付し、年4回の事業所便りでは利用者の写真を添え日々の様子を伝えるほか、事業所の行事等運営面も伝えているが、家族には伝わっておらず、理解が得られていないため、理解が得られるよう分かりやすい説明を加える等工夫を期待したい。家族の面会時には、職員が気軽に声をかける等話しやすい雰囲気づくりに努めており、家族が気になることを相談したり、職員からは利用者の様子を伝えたりしている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも面会して頂けるように面会時間を設けていない。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りやクリスマス行事に合わせて家族会を計画している。			○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	季節ごとに事業所便りを作成しており全家族に配布してその時の様子を見て頂いている。またケアプラン送付時や毎月の手紙に日頃の会話やその人らしい変化を報告している。			○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族会に合わせてアンケートを実施してその中でニーズ・要望について一つずつ解決している。今回のテーマは看取りについてアンケートを実施した。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症について理解を深めていけるように心掛けている。また今年度の取り組みとして看取りについての本人の想い・家族の想い・理解など話す機会を多く設ける事が出来た。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	前回の反省点から職員の退職や異動などの伝えるように心掛けている。実際前回の調査から退職・異動等はない。			x		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年に二回家族会を計画している。参加者は限られているがその中で交流が広がっている。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人の現状をお伝えし、認知症の進行に伴いこれから起こりうる症状やリスク面を面会時にお伝えしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	職員は日頃の様子を報告している。また衣替えの時期や日用品の購入などを依頼し関係性が築けている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に二部用意しゆっくり時間をかけて説明をし同意書にサインして頂いている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至る場合でも現在の本人の状態などを時間をかけて説明し同意を得てから手続きに入るようにしている。また、滞る事なく次に移れるように支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には文書と口頭で説明をして同意を得ている。また契約書の中に料金一覧の枠を設けておりその都度説明後サインを頂いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などで施設の目的や役割について地域の方と理解を深めている。今年度は防災士さんが新しく参加	/	○	/	地域の文化祭に利用者の作品を出展し、事業所の夏祭り等の行事には地域住民へ案内を出している。近隣住民に野菜をもらうことや、住民が事業所を訪問して看護師に健康状態を確認してもらう等、日常的につながりがある。公民館の子ども会のイベントには挨拶で訪問しており、地域とのつながりを深めて行きたいと考えている。事業所の敷地そばの地域のゴミ置き場の清掃を行う等、地域の一員として積極的に地域と関わりを持つ取り組みを行っている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日頃からのあいさつや町内の行事などに参加し新しい関係が築いていけるように心掛けている。また施設の夏祭りの案内など近隣の方々にも配布している。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	事業所の行事に参加して下さる近隣の方がいる。夏祭りの行事に参加して下さった。地元の人4名参加	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	野菜や食材をお裾分けして下さる方がいる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近くにゴミ置き場があるの挨拶をする機会がある。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内会長さんがよく運営推進会議の時に今後の地区行事の予定を教えてくださいと促して下さる。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くにスーパーまでシルバーカーを押して買い物に出かけたり、近くの公園に散歩に行き気分転換を図っている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣のスーパーや喫茶店などによく行っている。関係を深める取り組みまでは至っていない。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	利用者家族・地域の方が毎回参加して頂いている。	○	/	○	利用者や家族、地域住民、市や地域包括支援センター等関係者の参加を得ている。会議では写真を使って事業所や利用者の様子、外部評価の内容等について報告している。意見交換を行って出された意見や提案等は運営に活かし、その結果についても報告している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告をする際に写真を取り入れながら、その時の様子・利用者の表情を見て頂いている。また、外部評価後の運営推進会議の結果報告をわかりやすくまとめなおしてお渡ししている。	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見交換を大切にしているので家族や地域からの意見・要望を必ずお伺いし行政、地域の助言を頂きながら解決している。	/	◎	◎		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加者は同じメンバーが多いが参加して頂ける家族は増えた。	/	○	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	松山市介護保険課に提出している。また玄関に掲示をしたり報告書を家族に配布して理解を深めて頂いている。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念にもとづき、家庭的な施設を目指している。また見える所に掲示し統一したケアの実現に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や共有スペースに掲示している。入居案内や契約時に理念が掲示しているパンフレットを配布している。	△	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内を掲示して参加を促している。今年実践者研修とリーダー研修に参加する職員がいる。	/	/	/	代表者は外部評価や運営推進会議にも参加し、現場の様子や課題について認識している。管理者や職員は代表者に対して、話しやすく相談しやすいと感じており、代表者は職員が意欲を持って明るく働けるように職場環境づくりに取り組んでいる。年2回法人負担で、職員同士が交流する会を開催し、職員同士の親睦を深めて業務に活かしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日頃から話し合える関係作りを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格習得や研修参加によって役割・役職を設け意欲向上につながるよう心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	社外研修に参加し交流を深めている。また同系列内で行事に参加し交流を深めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い、状態把握に努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	マニュアルの見直しを行ったり、社外研修へ参加し知識を深めている。また社内研修を通じて職員に周知に全員で知識を深めている。	/	/	/	マニュアルを完備しており、研修会にも参加して虐待やどのようなことが不適切ケアに当たるか、発見した場合の対応方法や手順等についても学んで理解している。利用者から見て不快に感じないかを念頭に置き、言葉遣いや目線、しぐさにも気を配っている。気になることがあれば管理者が場所や状況を考慮して注意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者のケアや近況について日頃から相談出来ている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアルを見えやすい所に置き理解を深めている。また利用者に対する声掛けなど気を付けている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に勤務形態(出勤回数・夜勤回数等)相談する機会を設けるよう心掛けている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルの見直しや外部・社内研修を通じて知識を深めている。また年間計画を立てて定期的に社内研修する機会を設けている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	マニュアルを各階に置き見やすい環境を作り知識を深めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	今の所ご家族から身体拘束の要望はないが、運営推進会議などで身体拘束の研修機会を設けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加して理解している職員もいるが研修参加者が偏っているが、報告し周知を図っている。研修会参加の呼びかけをしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談等は今の所ないが、研修内容を運営推進会議で報告している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターより連携体制が築けている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	統一した対応が出来るようにマニュアルを見直し掲示している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	指導・勉強会を実施しているが全ての職員で身につけているとは言えない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	簡易的なヒヤリハットを作成しており未然に防ぐように努めている。またミーティングで繰り返さないように話し合いも出来ている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全員で一人一人の状態を把握に努めその中からリスク面を話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、苦情などの流れ・対応を理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談窓口を設置しており担当が対応するようにしている。また専用の用紙を作成し記録に残せるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった場合には繰り返さないように話し合い改善に向けて取り組む。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別外出の機会を設けその中で話しを聞けるよう環境作りを目指している。日常では居室・入浴時などゆっくり話せる機会を設けている。			◎	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞き、個別の外出時等伝えやすい環境づくりにも努めている。家族からは面会の機会等に、管理者や職員から声をかけて書面で伺う等の工夫をしている。管理者と職員は何でも相談できる関係が築けており、職員の意見や提案等を普段から聞いて一緒に検討し、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会・面会時など意見や要望を聞けるよう配慮している。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中にも公的な機関の窓口を掲載している。ご家族から苦情が出た場合には上司に報告し内容によっては公的機関に連絡するように決めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	ミーティング時や普段の中で話しやすい環境作りを行っている。職員個別で意見を聞く機会も設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。利用者主体で考え本人の思いが反映出来るように努めている。			◎	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年各階自己評価を行っている。ミーティングで少し時間を作りながら進めている。	/	/	/	評価結果と目標の取組みについて、経過を含めて運営推進会議や家族会で報告してモニターをしてもらっており、議事録にも分かりやすく記録して配布しているが、家族や地域関係者の一部の理解が得られていないため、今後はサービス評価の意義や目的等を全ての家族に理解してもらえるように分かりやすく説明する等の取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価を通じて事業所の強みを再確認し、課題点は改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を通じてユニットミーティングで目標について話し合い改善に向けて取り組んでいく。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後の運営推進会議や家族会の時に報告し、配布して知って頂けるように努めている。	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	達成した項目を運営推進会議で報告し出来ない課題点は助言を頂いている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各種マニュアルを作成し掲示している。	/	/	/	今年から地区防災士と連携を取って事業所の避難訓練に参加してもらっており、助言を受ける等協力体制を構築している。事業所の夏祭りや防災コーナーを作り、地域住民や家族に対する啓発を行った。今後もさらに地域の防災訓練への参加等、地域を含めた防災対策に取り組んでいきたいと考えている。事業所内の緊急連絡網が確実に機能するか毎年試行しているが、家族の一部に理解されていないため、全ての家族が安心できる緊急災害時の協力体制の構築が望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練を重ね手順の再確認に努めている。また消防署職員や地域の方にも参加して頂き助言を頂いている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難場所は見えやすい所に掲げ職員や来客者が把握できるように努めている。また非常食などチェックリストも作成している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	西消防署や町内会・防災士と連携しながら計画を立てて、意見交換を重ね体制作りを図っている。夏には防災コーナーを作り、備蓄食品の展示や便利グッズを紹介して試食してもらった。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地区の介護施設連絡会に参加し防災について意見交換をしている。また今年から地区の防災士と連携が取れ、施設の防災訓練にも参加して頂けた。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議の時に地域に向けて発信している。今年度は看取りや高齢者虐待の研修を実施した。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方がホームに話に来られ、体調が悪い時には家にお伺いしバイタル測定など関係性が出来ている。	/	○	◎	「老人介護承ります」の看板を設置する等、地域に事業所の相談支援についてPRし、地域住民からの相談に積極的に対応している。ほかの事業所を見学したり、地区の福祉まつりに参加したりと協力体制を構築するほか、地域のコミュニティとしても活用してもらう等、地域に根ざし地域に開かれた事業所を目指している。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	歌のボランティアが来られた時には近隣の方にも声をかけ実際に来て頂けた。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	昨年同様初任者研修の受け入れを目指しているがいまの所まだ実施出来ない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地区の介護施設連絡会に参加し交流を深めている。また地区の福祉まつりなど地区の行事などに参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	令和元年10月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名 (ユニット名)	グループホーム齋院の杜 2F
記入者(管理者) 氏名	嶋屋 浩典
自己評価作成日	令和元年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】 1.入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。 2.職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りに努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1、地域との付き合い・ネットワーク作り ○取り組みの一つである「防災士」との連携作りを目標とし、運営推進会議及び施設の消防訓練に参加して頂けた。 2、本人と共に支え合う家族との関係作りと支援 ○今年度から看取り実施に向けて取り組みを始めた。看取り対象となる家族様との蜜に連携を取り本人の想いや家族の想いを聞き支援を継続している。また、個別での連絡体制を作り施設と家族が蜜に連絡を取れるように心掛けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 閑静な住宅地にある開設8年を迎える事業所である。利用者のどこに出かけたい、何を食べたいの気持ちを大切に個別ケアを行っている。代表者や管理者、職員間の関係も良好であり、退職者も少なく利用者にとって馴染みの職員がいる安心できる事業所である。家族会を積極的に行うほか、事業所の行事への案内や毎月の手紙等家族との関わりを大切にしている。地域に密着した事業所を目指し、積極的に地域とのつながりを深めようと取り組んでいる。今後は利用者や家族の希望に沿い、終末期支援を行えるように看取りの実施に向けて準備に余念がない。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人より希望や要望を聞いてケアに繋げている。また、面会時に家族にも本人の意向を確認し本人の思いや家族の考えを職員全員で把握できるように心掛けている。	○	/	○	入居前に利用者や家族から暮らし方の希望や意向を確認している。過ぎていく中で知り得た希望等はアセスメントシートに手書きで追加した上で申し送りノートに記入し、その都度職員全員が共有できるように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	普段の様子や言動から、本人の立場になって考えている。家族にも助言を頂き検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた方にも昔の話を聞いて本人の思いについて伺っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録や申し送りノートに記録している。記録に残す事で情報共有も図れている。本人の発した言葉を大切にしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉を大切に記録に残すようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時にアセスメント票を使って情報を集めている。また、本人とのやりとりの中から趣味や好きな事を聞いて広げている。また家族にもお伺いし安心して頂くように配慮している。	/	/	◎	管理者と介護支援専門員は、入居前の利用者の自宅に訪問し、馴染みの暮らし方や生活歴、生活環境等を利用者や家族から聞いてアセスメントシートに記入している。入居前に利用していたサービス事業所からも情報を得て把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	共に生活をしていく中で出来る事を見つけてケアに繋げている。職員間で情報を共有し支援を広げている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	生活していく中で本人が好きな場所や些細な変化・言動に耳を傾けるように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	居室で一对一の時間を作り原因を探るようにしている。職員の声のかけ方・体調面など話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人の生活リズムに合わせて支援している。日中・夜間の変化は記録に残し職員間で情報共有を図っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	集めた情報を元にケアに繋げ、職員間で情報を共有し実現に向けて努めている。	/	/	○	把握した情報を職員で話し合って利用者の視点で必要な支援を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人と相談し必要な物を考える。家族に依頼し持って来て頂く物や担当の職員が購入する事もある。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	環境面の変化や購入した物をミーティングや申し送りの時に報告し、情報の共有や新たな課題について話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人から希望や要望など話を伺い介護計画に盛り込んでいる。また家族にも意見をお伺いする事もある。	/	/	/	計画作成担当者と利用者、家族、担当職員が話し合って利用者や家族の意向を反映させた介護計画を作成している。半年ごとに介護計画の見直しを行っており、家族にもその都度書面で意向を伺っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族から意見や意向を伺い、意見交換をしながら介護計画を作成している。出来た介護計画は家族にも確認して頂く。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	居室に馴染みのある物や好きな物を飾りなど、以前の暮らしが継続して過ごせるように工夫している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や地域との助言を頂き、家族の力も借りながら取り組んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員全員が担当を持ち、介護計画のアセスメント、モニタリング、評価を行う事で知識を深め、ミーティングで情報共有が図れている。	/	/	○	介護計画はすぐに確認できるようにしているが、日々の記録の中で介護計画に沿ってケアが実践できているか、連動してナンバリングするなどさらに分かりやすい記録方法を検討してほしい。利用者の様子や支援内容を丁寧に記録しており、職員が気づいたことやアイデアも個別に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月末に介護計画のモニタリングをして実施の評価をしている。介護支援専門員と相談しながら、介護計画を継続するか、変更するか検討している。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人の発した言葉を大切にしているので介護記録に残すように心掛けている。普段と違う様子なども記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティングで新しい取り組みについてアイデアが出ている。また日々の申し送り時にも話し合いが行えている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	評価期間は6か月にしている。本人の状態やモニタリングの結果などからその都度変更する場合がある。その場合は家族にも連絡している。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとに見直ししている。毎月モニタリングを行い、利用者の状態を確認・共有している。利用者の状態に変化があった場合はその都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月末にモニタリングという形で評価をしている。介護計画を継続するのか変更するのかを相談しながら決めている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態の変化や介護計画の見直しを行った際にはミーティングで報告をして、職員間の情報共有を図っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングを開催しており、利用者カンファレンスに時間をかけて情報共有を図っている。	/	/	◎	各ユニットで毎月ミーティングを行い、年2回程度両ユニット合同で話し合っている。参加できなかった職員も会議の内容が把握できるように、申し送りノートや議事録を回覧・確認して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全職員が発言できるように司会者が工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	ミーティングは全職員対象であるが、参加出来ない時には後日議事録を確認してミーティングで決まった内容の把握に努めている。サイン欄があり読んで後はサインをしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を見て把握したり、口頭で説明をして情報共有を図っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りでは口頭で説明や業務日誌の特記事項に記入して情報共有を図っている。	/	/	○	申し送りノートや会議の議事録等は、確認後サインをして確実に情報伝達ができるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートにはサイン欄を設け目を通してから業務に入っている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	本人と相談しながらその日の予定を立てている。散歩やレク体操など日々行っている。	/	/	/	朝食は利用者の起床時間に応じて提供している。おやつや飲み物等は、いくつかの中から選んでもらい、服装も利用者に選んでもらうようになっている。利用者一人ひとりの得意なことや好きなことを把握し、生活の中に取り入れて楽しみのある暮らしを支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	朝食ではご飯・パン自分で決めて頂いている。また入浴後の服装など本人と相談しながら自分で決める機会を設けている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	外に出て過ごしたい利用者が多く、外出支援に力を入れていけるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床時間・就寝時間など本人のペースに合わせて支援出来ている。入浴などは本人の習慣に合わせている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	リビングの展示物や花を活けるなど季節に合わせる事で会話も弾み居心地のいい環境作りを目指している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を確認しながらその人がその人らしく過ごして行けるよう心がけている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権・尊厳に対して理解出来ている。理念のもと全員が意識をして取り組んでいる。	○	◎	○	外部研修に参加して人権や尊厳について学んでおり、普段から利用者に対して言葉遣いや表情、目線を合わせての会話等意識している。居室はノックや声かけをして入室するように心がけ、利用者の希望で開放している。のれんをかけて居室内が見えないように配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者一人ひとり大切に思いその人の合わせて声掛けや支援を行い、安心した生活が送れるように取り組んでいる。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ誘導する時の声の大きさ、見守りをする時の本人への配慮などに注意しながら対応している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室への入室は必ずノックまたは本人がリビングで過ごしている場合には本人に声を掛けるなど配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報については代表より説明・就業規則にも書いてあるので全員が厳守出来ている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お互いの「ありがとう」と支え合える関係性を目指し取り組んでいる。	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を把握し、トラブルを未然に防ぐように心がけている。利用者の中で良好な関係が築けており、利用者同士が気持ち良く関わりを持てるように支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が主となり花札を楽しんでいる場面もある。利用者同士お互い支えあいながら生活出来ている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	馴染みの関係性を大切にしている。全員で行事やレクレーションに参加し、少人数や個別で外出支援なども行っている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士で解決出来るそうならそっと見守り、職員が仲介に入る場面もある。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時、面会時に情報が得られるように家族や知人の方とのコミュニケーションを図っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から情報を集めている。面会以外でも遠方の方には手紙を送りに記入して頂いている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	馴染みの友達や、遠方の子供・お孫さんなど面会に来て頂いている。携帯電話を持っている方は友達と連絡をされている方もいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	自宅で馴染みの方とゆっくり過ごせるように職員が間に入り普段の様子をお話している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	その日の希望に添いながら支援している。天気の良い日には少しでも外の空気に触れて頂くために散歩や駐車場の花を見て過ごして頂く。	○	○	◎	散歩や買い物、外食等利用者一人ひとりのその日の希望の場所へ出かけられるように努めている。重度の利用者を含め、気軽に出かけており自然に触れることで、気分転換が図れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現状は家族の力を借りながら支援しているが、家族の協力も難しいので今後利用について検討していく。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	玄関先の花を見て過ごしたり、他の階に遊びに行つて気分転換が図れるように工夫している。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族さんと遠方に出かけたり、外食に行かれる事もある。家族の意向をお伺いしたり、本人の希望を伝えて実現する事もある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症に理解を深めている。外部の研修に参加をしたり社内研修も実施している。	/	/	/	職員は、手や口を出しすぎずに利用者のできることを見守ったり、一緒に行ったりすることで利用者の心身機能の維持や向上につながるようになっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	機能が低下しないためにレクリエーションを計画したり、天気の良い日には外に出て歩いて散歩をしたりしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事・出来るような事を声をかけながら見守り、また一緒に作業をする事で自発的に取り組んで下さる事がある。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の得意な事・出来る事を見つければ生活の中で役割が持てるように心掛けている。	/	/	/	洗濯物たたみや掃除、裁縫等、利用者一人ひとりの得意なことを見つけて役割を持ってもらえるよう取り組んでおり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	レクで体操やカラオケを取り入れて一緒に参加している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	散歩の時は利用者の方から地域の方に声をかけて顔なじみの関係が作れてきている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で着る服を決めるように声掛けをして身だしなみに配慮している。				食事中の食べこぼしに対してさりげなくカバーする職員の様子が見受けられた。重度の利用者を含め、衣服と一緒に選んだり、髪型や服装を整えたりして、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	カットの時には自分で伝えて整えている方をいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の好きな色や柄を伺い、その中で話し合って支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出前に鏡を見て髪を整える方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自分で直せる方にはさりげなく声をかけて促せるように、職員が整える場合もある。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	自分の行きたい所へ行く方もあるがほとんどは訪問を利用している。その中で楽しみにされている方もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	どこまで出来るか話し合い、衛生面も考慮してその人らしさが保てるように心掛けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解出来ている。				献立は調理師が作成しており、昼食と夕食は調理師が両ユニット分を1階でまとめて調理している。食材の買い出しは職員が行っているが、家庭菜園で利用者と一緒に収穫した季節の野菜をメニューに加えたり、好みを踏まえながら誕生日等利用者のリクエストに対応したりしている。食器類は使い慣れたものや利用者に合った使いやすいものを使用している。1階は利用者と職員と一緒に食事をしており、2階は食事介助があるため、一緒に食べていないが、今後一緒に食卓を囲む機会を作っていきたいと考えている。キッチンリビングに面した対面式になっており、重度の利用者を含め、利用者全員が調理の音や匂いを感じている。職員がメニューの説明をする等、食事を楽しんでもらえるような工夫もしている。職員と調理師で栄養バランスの良い献立を作成するとともに、利用者一人ひとりが美味しく食事できるように話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の好きな物をお伺いし献立の中に取り入れるように心掛けている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	自分で出来る手伝いで役割を担っているが、食事に関しては職員が行う事が多い。コップなど下膳して下さる事もある。(1名のみ徒歩できる後の人は難しい)				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前に家族にアレルギーの有無の確認をしている。又本人から好きな物・嫌いな物をお伺いして確認している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	行事食や季節の旬な物を献立に取り入れ、目でも楽しんで頂けるように工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	一人一人の食事形態に合わせて、キザミやトミミを使用している。また本人の状態に合わせてミキサー食の方もいる。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	以前から使用していた物をそのまま使う場合と、本人の状態に合わせて使いやすい物を選んで使用する。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事の見守り、服薬介助など補助する事が多く現状一緒に食事は行っていない。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度な方は今いないが、食事前にメニューを伝えるなど工夫している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量・水分量が少ない方にはチェック表を活用して一日の水分量の把握に努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	チェック表を確認しながら水分が少ない時には少しずつ促し、食事量の少ない方はエンシュアなど補助食品を使って補っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師が栄養バランスの配慮や食べやすいように調理方法を工夫して取り組んでいる。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗い・ハイター消毒など衛生管理は日常的に取り組んでいる。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解出来ている。				毎食後、声かけや介助をして口腔ケアを行い、口腔内の状態を把握して清潔保持に努めている。月2回歯科往診を利用している利用者が現在3名いるが、事業所全体として歯科衛生士との定期的な連携を検討する等、利用者の口腔ケアに万全を期すようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の時や口腔ケアの時に状態把握に努めている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診歯科医に助言を頂いたり意見交換を行っている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	その都度声掛けをして確認している。また自分で行えない方は職員が支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後声掛けをして口腔ケアを促している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	痛みの訴えがある場合は訪問歯科医に相談し対応して頂いている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解出来ている。				トイレで気持ち良く排泄できることを基本にしており、利用者の希望で夜間ポータブルトイレを使用している利用者もいる。利用者一人ひとりの状態に合わせて使用する排泄用品を見直したり、おむつ業者の研修を受講して知識を身につけたりすることで、排泄用品に頼りすぎず、なるべく量を減らせるように取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解出来ている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便チェック表を活用し把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人の状態に合わせてパットを利用している。又日中は自力排泄を目指してトイレを利用して頂いている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排便チェックや水分チェック表など本人の情報をもとに話し合いが行えている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人排泄パターンを把握し、その人のペースに合わせて声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員間で適切なパット・枚数など話し合いを重ねている。パットを使う場合や変更する際には家族に報告をして理解をして頂いてから使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者に合わせて使い分けが出来ている。オムツの選択方法や漏れない当て方の研修実施した。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食べ物や運動で自然排便を目指しているが、間隔が空くと薬を使う場合もある。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人のペースに合わせて支援出来ている。		○	○	基本的に週3回入浴できるようになっており、利用者の入浴日は決めていない。好みのシャンプーを使用し、時間をかけてゆっくり入浴してもらう等、利用者一人ひとりの希望に合わせて柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人の希望(回数や時間)に合わせて取り組んでいる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	一人一人に合わせて一部介助・見守りなど本人が安心して入浴して頂けるように心掛けている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いして入浴する事はなく、拒む理由を傾聴し原因を理解して、時間の変更など対策を取っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	必ずバイタル測定を行っており、状態把握に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間記録に一人一人の睡眠状態を記入して把握に努めている。	/	/	/	日中活動的に過ごす等工夫し、服薬に頼らないようにしている。不眠が続く場合は、主治医に相談して薬を処方してもらうこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の過ごし方(活動・昼寝等)を見直し、夜しっかり睡眠が取れるように話し合っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間覚醒された場合には職員が寄り添い見守っている。また、主治医の判断で睡眠導入剤を使用する場合もある。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中でも本人の様子を見ながら横になれるよう声掛けをしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話が掛かってきたら居室でゆっくり話せるよう環境作りをしている。また利用者からご家族に連絡したい場合は事前にご都合の良い時間をお伺いするなど配慮している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人にお渡しして居室に飾っている利用者もいる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を所持させている方もいらっしゃるので気軽に電話が出来るように配慮している。事業所の電話からご家族に連絡する場合でも気兼ねなく話せるように工夫している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	家族・知人から手紙は本人にお渡ししているが、こちらから返信する事は少ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	年賀状などこちらから依頼するケースは少ない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品を一緒に買いに行き、自分で選んで購入する事もある。また外食する機会も設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	外食など事前に車いす可能か連絡し確認してから行く事もある。伝える事で入口から近い席に案内して下さるお店もある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族と相談して入所時からお金を持っている方もいる。外出の時にはそのお金で購入する機会もある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	自分で持たれている方は紛失のリスクも相談している。また一人一人お小遣い預かりとして出納帳を作成している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月出納帳のコピーと日常の様子の手紙を添えて配布してご家族に使い道の確認をして頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者の希望・要望に添えられるように支援している。	○	/	○	訪問マッサージ等利用者が希望する外部サービスを利用することができる。法要への参加等、希望があれば様々なニーズに応じ、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に花を植えたり、ピースの作品を飾っている。	○	○	◎	玄関は道路から少し中に入った駐車場側になっているが、道路側には事業所名や「老人介護を承ります」との看板があり、見た人がどのような建物か分かりやすいように示している。玄関周辺はプランター菜園や良く手入れされた植物が置かれ、家庭的で明るく入りやすい雰囲気である。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合わせて飾りを変えて目で楽しんで頂けるように工夫している。また一緒に飾り付けを行い達成感や作業を楽しんでいる。	○	○	◎	利用者と職員と一緒に作成した展示物や、利用者の似顔絵や写真等を展示している。リビングや浴室、トイレ等も掃除が行き届き、清潔が保たれており、気持ち良く使用できる。エアコンの吹き出し口に布をつけて直接風が当たらないように工夫している。花や植物をバランス良く飾り、温かみのある空間づくりに取り組んでいる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除や整理整頓をして環境整備に努めている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	天気の良い日には窓際から日差しが差し込みソファでくつろがれている方もいる。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	レクの時には椅子の配置を変えて全員で楽しめるようこ掛けしている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	直接見えない作りになっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人が大切にしていた物を持って来て頂き施設でも継続して使ってもらっている。	◎	/	/	◎	エアコンと利用者の状態に合ったベッドが備え付けられている。家具や電化製品等、以前使っていたものを持ち込み、家族の写真を飾る等安心できる空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレと目印となる案内を置き自分でいけるように配慮している。	/	/	/	○	リビングは、車いすの利用者も方向転換したり、自走したりしやすいように十分なスペースがある。トイレの手すりは利用者にとって分かりやすいように色テープを貼る等、安心して自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの看板を作り混乱しないように配慮している。	/	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	湯のみや新聞等は手の届く所に置き、危険な物については職員が管理するようにしている。	/	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全員が施錠する事での弊害を理解している。今年度から日中は鍵廃止を掲げ、家族にも報告をしている。	x	◎	△	玄関のドアは日中は施錠していない。職員全員が鍵をかけた中で生活することの弊害を理解しているが、ユニットの出入口については状況に応じて鍵をかけている。2階はユニット出入口を出てすぐに階段があり、安全性を第一に考慮して施錠し、家族にも説明して了解を得ているが、今後は鍵をかけない自由な暮らしが送れるよう家族にも理解を求めた上で工夫して欲しい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全面で施錠を希望されるご家族もいるが施錠をしなくて自由に過ごす大切さを理解して頂けるように説明をしている。	/	/	/		/
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出が好きな利用者が多く、職員と一緒に散歩に出かけたり、外に出る機会を大切にしている。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	現病によって薬の増減や対応が変わるので把握している。また申し送りノートに薬の増減について記載し確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	状態に変化が見られた場合は必ずバイタルチェックをしている。また申し送り・ミーティングで変化を伝え、対応・対策を考え取り組んでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護師や往診時主治医に気になる事は相談し対応・対策をお伺いしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居の際に今利用している病院を継続して利用したいか必ず確認している。実際に入所してから今まで使っていた病院を継続して利用している方もいらっしゃる。		○		
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	病院に受診される時施設職員が同席している。ご家族の希望と主治医の意見を確認しながら円滑に適切な医療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族の依頼より病院の現地で待ち合わせそのまま受診に同席させて頂く事もある。その中でご家族と情報共有し、施設での対応について説明し同意頂くようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	緊急用情報提供表と施設情報を全員作成しておりスムーズに動くことが出来るようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先に行く場合には現状把握・退院時期などその都度聞く機会を設け状態把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	細かい変化があった場合でも往診時に報告し状態把握に努めて頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護ステーションと契約し定期的に往診に来て頂いている。利用者の変化はこまめに報告し主治医との連携も図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションと契約しており、夜間や緊急時の連絡体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々のバイタルチェックや排便コントロールなど確認し情報の共有が図れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の作用・副作用を把握出来るように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	本人の前で名前・朝昼夕・日付を声に出して確認し服薬介助を行う。また飲み込みも確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の増量・減量など変化があった時には申し送りノートを使って必ず伝達し情報共有が図れている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態に変化が見られる場合には主治医に連絡し迅速に対応している。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	今年度から看取りの実施実現に向けてアンケート依頼や発信する機会が多く家族から考える機会を頂いたと話をして頂けた。	/	/	/	看取りの実績はないが、看取りの実施に向けて家族や利用者アンケートを行った結果、看取りを希望する声が多く、職員も事業所での看取りについて前向きな気持ちである。今後、医師や看護師との連携、看取り指針やマニュアルの作成、職員研修等を行い、看取り支援が実施できるように準備を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	各主治医にも看取りの実施の話を連絡体制の強化を図っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	本人の想いや家族の考え方を含めてケアマネや職員と共に話し合いを重ねている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族から施設がどこまで出来るかわからないと意見を頂いたので分りやすく説明・文章の工夫が必要と感じている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人の想いや家族の希望・要望を密に話し合い、希望する医療機関で受診できるように支援している。また主治医の往診時には近況報告を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に近況報告を行っている。また電話や手紙などで遠方の方には報告をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	各種マニュアルを作成しており各階に掲示している。また時期になる前にミーティングで勉強会を行い早期対策に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症のセットを常時準備している。またインフルエンザの流行時にはご家族協力のもと面会に規制をかけ予防に努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	流行の時期になると最新の情報を集め予防・対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の発生や系列施設での流行に合わせて予防・対策など対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底しており、予防対策としてマスクも活用している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族が来られた際には、普段の様子や行事での様子をお伝えしている。ご家族と話す時間を大切に、その中で要望などもお伺いしている。	/	/	/	家族には、年間を通して定期的に事業所行事の案内を行っており、行事に合わせて年2回家族会も開催し、年々参加者も増えている。毎月利用者の暮らしぶりを報告する手紙を送付し、年4回の事業所便りでは利用者の写真を添え日々の様子を伝えるほか、事業所の行事等運営面も伝えているが、家族には伝わっておらず、理解が得られていないため、理解が得られるよう分かりやすい説明を加える等工夫を期待したい。家族の面会時には、職員が気軽に声をかける等話しやすい雰囲気づくりに努めており、家族が気になることを相談したり、職員からは利用者の様子を伝えたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	いつでも面会して頂けるように面会時間など設けていない。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りやクリスマス行事に合わせて家族会を実施している。今年の夏祭りでは「看取り」についてアンケート結果を下に家族の意見交換が行えた。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	季節ごとに事業所便りを作成しており全家族に配布してその時の様子を見て頂いている。またケアプラン送付時や毎月の手紙に日頃の会話やその人らしい変化を報告している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族会に合わせて全ご家族対象アンケートを実施しその中でご家族の要望など意見が出て改善に向けて取り組んでいる。今年度は看取りについてアンケートを実施した。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族会や運営推進の時に看取り・認知症の理解など勉強する機会を設けている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会で行事・異動など報告している。また毎月出納帳コピーを送っており、その時にも報告している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年二回家族会を開催しておりその中で交流が広がっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	本人の現病を含めてこれからのリスク面など色々な視点から意見や対応について説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	日頃から利用者の近況報告や日用品の依頼など相談し関係性を築けている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に二部用意しゆっくり時間をかけて説明をし同意書にサインして頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至る場合でも現在の本人の状態などを時間をかけて説明し同意を得てから手続きに入っている。また、滞る事なく次に移れるように支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には文書と口頭で説明をして同意を得ている。また契約書の中に料金一覧の枠を設けておりその都度説明後サインを頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などで施設の目的や役割について地域の方と理解を深めている。今年度は防災士さんも参加。	/	○	/	地域の文化祭に利用者の作品を出展し、事業所の夏祭り等の行事には地域住民へ案内を出している。近隣住民に野菜をもらうことや、住民が事業所を訪問して看護師に健康状態を確認してもらう等、日常的につながりがある。公民館の子ども会のイベントには挨拶で訪問しており、地域とのつながりを深めて行きたいと考えている。事業所の敷地そばの地域のゴミ置き場の清掃を行う等、地域の一員として積極的に地域と関わりを持つ取り組みを行っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日頃からのあいさつや町内の行事などに参加し新しい関係が築いていけるように心掛けている。また施設の夏祭りの案内など近隣の方々にも配布している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	事業所の行事に参加して下さる近隣の方がいる。夏祭りの行事に参加して下さった。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	野菜や食材をお裾分けして下さる方がいる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近くにゴミ置き場があるの挨拶をする機会もある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内会長さんがよく運営推進会議の時に今後の地区行事の予定を教えて下さり参加しやすいように促して下さる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くにスーパーまでシルバーカーを押して買い物に出かけたり、近くの公園に散歩に行き気分転換を図っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣のスーパーや喫茶店などによく行っている。関係を深める取り組みまでは至っていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	利用者家族・地域の方が毎回参加して頂いている。	○	/	○	利用者や家族、地域住民、市や地域包括支援センター等関係者の参加を得ている。会議では写真を使って事業所や利用者の様子、外部評価の内容等について報告している。意見交換を行って出された意見や提案等は運営に活かし、その結果についても報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告をする際に写真を取り入れながら、その時の様子・利用者の表情を見て頂いている。また、外部評価後の運営推進会議の結果報告を分かりやすくまとめなおしてお渡ししている。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見交換を大切にしているので家族や地域からの意見・要望を必ずお伺いし行政、地域の助言を頂きながら解決している。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加者は同じメンバーが多いが参加して頂ける家族は増えた。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	松山市介護保険課に提出している。また玄関に掲示をしたり報告書を家族に配布して理解を深めて頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念にもとづき、家庭的な施設を目指している。また見える所に掲示し統一したケアの実現に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関や共有スペースに掲示している。入居案内や契約時に理念が掲示しているパンフレットを配布している。	△	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の案内を掲示して参加を促している。今年実践者研修とリーダー研修に参加する職員がいる。	/	/	/	代表者は外部評価や運営推進会議にも参加し、現場の様子や課題について認識している。管理者や職員は代表者に対して、話しやすく相談しやすいと感じており、代表者は職員が意欲を持って明るく働けるように職場環境づくりに取り組んでいる。年2回法人負担で、職員同士が交流する会を開催し、職員同士の親睦を深めて業務に活かしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日頃から話し合える関係作りを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格習得や研修参加によって役割・役職を設け意欲向上につながるよう心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	社外研修に参加し交流を深めている。また同系列内で行事に参加し交流を深めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い、状態把握に努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	マニュアルの見直しを行ったり、社外研修へ参加し知識を深めている。また社内研修を通じて職員に周知に全員で知識を深めている。	/	/	/	マニュアルを完備しており、研修会にも参加して虐待やどのようなことが不適切ケアに当たるか、発見した場合の対応方法や手順等についても学んで理解している。利用者から見て不快に感じないかを念頭に置き、言葉遣いや目線、しぐさにも気を配っている。気になることがあれば管理者が場所や状況を考慮して注意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者のケアや近況について日頃から相談出来ている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアルを見えやすい所に置き理解を深めている。また利用者に対する声掛けなど気を付けている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に勤務形態(出勤回数・夜勤回数等)相談する機会を設けるよう心掛けている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルの見直しや外部・社内研修を通じて知識を深めている。また年間計画を立てて定期的に社内研修する機会を設けている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	マニュアルを各階に置き見やすい環境を作り知識を深めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	今の所ご家族から身体拘束の要望はないが、運営推進会議などで身体拘束の研修機会を設けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加して理解している職員もいるが研修参加者が偏っているが、報告し周知を図っている。研修会参加の呼びかけをしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談等は今の所ないが、研修内容を運営推進会議で報告している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターより連携体制が築けている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	統一した対応が出来るようにマニュアルを見直し掲示している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	指導・勉強会を実施しているが全ての職員で身につけているとは言えない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	簡易的なヒヤリハットを作成しており未然に防ぐように努めている。またミーティングで繰り返さないように話し合いも出来ている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全員で一人一人の状態を把握に努めその中からリスク面を話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、苦情などの流れ・対応を理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談窓口を設置しており担当が対応するようにしている。また専用の用紙を作成し記録に残せるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった場合には繰り返さないように話し合い改善に向けて取り組む。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別外出の機会を設けその中で話しを聞けるよう環境作りを目指している。日常では居室・入浴時などゆっくり話せる機会を設けている。			◎	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞き、個別の外出時等伝えやすい環境づくりにも努めている。家族からは面会の機会等に、管理者や職員から声をかけて書面で伺う等の工夫をしている。管理者と職員は何でも相談できる関係が築けており、職員の意見や提案等を普段から聞いて一緒に検討し、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会・面会時など意見や要望を聞けるよう配慮している。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中にも公的な機関の窓口を掲載している。ご家族から苦情が出た場合には上司に報告し内容によっては公的機関に連絡するように決めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	ミーティング時や普段の中で話しやすい環境作りを行っている。職員個別で意見を聞く機会も設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。利用者主体で考え本人の思いが反映出来るように努めている。			◎	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年各階自己評価を行っている。ミーティングで少し時間を作りながら進めている。	/	/	/	評価結果と目標の取組みについて、経過を含めて運営推進会議や家族会で報告してモニターをしてもらっており、議事録にも分かりやすく記録して配布しているが、家族や地域関係者の一部の理解が得られていないため、今後はサービス評価の意義や目的等を全ての家族に理解してもらえように分かりやすく説明する等の取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価を通じて事業所の強みを再確認し、課題点は改善に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を通じてユニットミーティングで目標について話し合い改善に向けて取り組んでいく。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後の運営推進会議や家族会の時に報告し、配布して知って頂けるように努めている。	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	達成した項目を運営推進会議で報告し出来ない課題点は助言を頂いている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各種マニュアルを作成し掲示している。	/	/	/	今年から地区防災士と連携を取って事業所の避難訓練に参加してもらっており、助言を受ける等協力体制を構築している。事業所の夏祭りや防災コーナーを作り、地域住民や家族に対する啓発を行った。今後もさらに地域の防災訓練への参加等、地域を含めた防災対策に取り組んでいきたいと考えている。事業所内の緊急連絡網が確実に機能するか毎年試行しているが、家族の一部に理解されていないため、全ての家族が安心できる緊急災害時の協力体制の構築が望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練を重ね手順の再確認に努めている。また消防署職員や地域の方にも参加して頂き助言を頂いている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難場所は見えやすい所に掲げ職員や来客者が把握できるように努めている。また非常食などチェックリストも作成している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	西消防署や町内会・防災士と連携しながら計画を立てて、意見交換を重ね体制作りを図っている。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地区の介護施設連絡会に参加し防災について意見交換をしている。また今年から地区の防災士と連携が取れ、施設の防災訓練にも参加して頂けた。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議の時に地域に向けて発信している。今年度は看取りや高齢者虐待の研修を実施した。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方がホームに話に来られ、体調が悪い時には家にお伺いしバイタル測定など関係性が出来ている。	/	○	◎	「老人介護承ります」の看板を設置する等、地域に事業所の相談支援についてPRし、地域住民からの相談に積極的に対応している。ほかの事業所を見学したり、地区の福祉まつりに参加したりと協力体制を構築するほか、地域のコミュニティとしても活用してもらおう等、地域に根ざし地域に開かれた事業所を目指している。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	歌のボランティアが来られた時には近隣の方にも声をかけ実際に来て頂けた。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	昨年同様初任者研修の受け入れを目指しているがいまの所まだ実施出来ない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地区の介護施設連絡会に参加し交流を深めている。また地区の福祉まつりなど地区の行事などに参加している。	/	/	○	